

餌と水

母乳の大部分が水であるにもかかわらず、母豚にとっての水の重要性は、あまりにも過小評価されています。母豚は子豚に母乳を与える合間に立ち上がり、わずかな時間で大量の水を飲まなくてはなりません。そのため、分娩舎での給水ニップルからの流量は、毎分 2.5ℓ が必要です。また、食下量が上がらない場合、猛暑の季節、発熱時には、分娩前後の母豚に補助的に水を与えましょう。

授乳期の母豚の体重を維持するためには、水だけでなく、十分な餌を食べることも重要です。給餌器に実際に何 kg の餌が落ちているかを量ってみましょう。そして母豚が実際に消費している総エネルギー量を計算しましょう。また、エネルギーの「量」だけでなく、タンパクの質や、アミノ酸構成比も重要です。

水は OK ?

水量と水質：

- 年 1 回の水質検査を実施する
- 水圧をかけて給水量を確保する 貯水タンクと水量計がない場合には、豚が何頭も同時に水を飲んでいるタイミングで観察し、給水量を目測する
- 配水設備を定期的に清掃する
- 水の流れに妨げがない状態に保つ

水の流れを妨げる原因：

- 薬剤由来の沈殿物
- 藻や細菌の繁殖
- 高濃度のミネラル
- 石灰沈殿物
- 設備の不具合（配管のねじれ、屈曲、配管内の水の停滞、腐食）

食欲不振／食欲なしの原因：

- 室温が高すぎる（22℃より高温）
- ボディコンディションが不適切（妊娠期に餌を与えず）
- 分娩後、給餌量を増やすペースが速すぎる
- 給水不足（ニップルの目詰まりなどにより、流量が毎分 2.5ℓ に満たない場合）
- 病気、発熱
- 餌箱の餌が古くなり傷んでいる
- 餌の嗜好性が悪い（原料の問題）



この洗濯ばさみは、給餌量を減らしている母豚に目印としてつけているもの。給餌量は減らさない方が望ましいが、かといって、増やすペースが速すぎてもいけない。食い止まりや嘔吐の原因になるためだ。分娩後の母豚の給餌量は、1日 2～3kg から始めよう。そして1日 0.5kg ずつ増やしていこう。また他のオプションとして、分娩後 5 日目からは給餌量はそのまま維持して増やさず、10 日目に最大量（2～2.5kg + 哺乳子豚 1 頭あたり 0.5kg）を給与する、という方法もある。



見て、考え、行動しよう！ 母豚が腹を隠している原因は？

この母豚は子豚に哺乳させないようにお腹を隠しています。乳房が敏感になっていて、授乳させると痛いからです。母豚は乳房を隠して腹ばいに寝ていて、餌も食べていません。子豚は落ち着かない様子です。母豚の糞がコロコロしていることから、泌乳量が不足していることがうかがえます。コロコロした糞は、消化管の動きが遅いことを示しています。消化管の動きが遅いと、腸管内で細菌が増殖するスピードが速くなり、その細菌が作る毒素によって泌乳量が落ちます。このような問題が今回初めて見られた母豚であれば、抗炎症薬の投与による改善が期待できます。解熱作用と解毒作用もありますので、投与後には母豚の食欲が回復し、糞がゆるくなるでしょう。

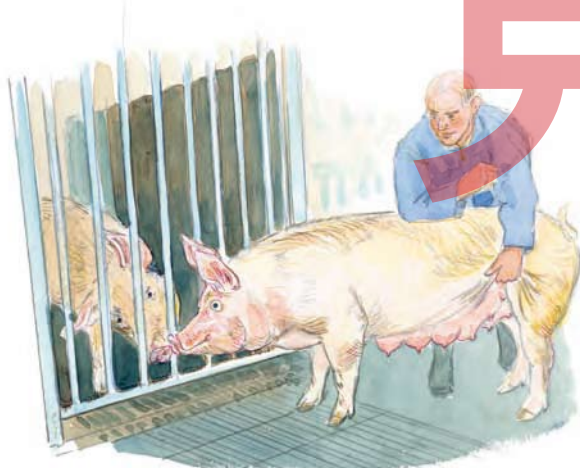
母豚からのシグナル

発情の時には、母豚はたくさんのシグナルを発します。“完全な発情”とは、雄の前でじっと動かなくなることを指します。雄豚へ興味を示す、落ち着きのない行動を取る、といった“発情行動”を示す段階は、まだ“許容＝雄の前で動かなくなる”状態ではありません。発情行動では、特徴的な低い声を出したり、他の母豚に乗駕することもあります。

未経産豚の発情持続時間が短い原因は、ストレスや(雄豚や人に対する)恐怖心です。母豚を収容する時には産歴順に並べ、社会的順位の高い母豚の隣に未経産豚を入れることは避けましょう。ストレスの原因になります。

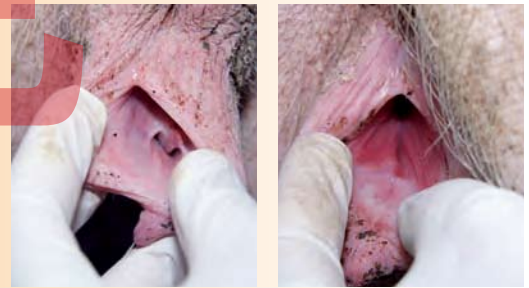


“完全な発情”であれば、許容は10～15分間持続する。発情チェックと交配をこの間に終わらせなければいけない。許容を示している時、母豚は背中をわずかに丸め、じっと動かなくなる。頭は真っ直ぐ前を向き、耳はピンと立つ。目からは感情が消えているように見える。耳を振る場合には、まだ完全な発情ではない。完全な発情を示している母豚は、人が背中に乗っても動かない。



許容を引き出すためのコツは、いきなり腰を押さないこと。雄豚をまねて刺激を与えよう。

- 最初に、後肢の付け根から背中にかけてさすり、可能ならば膝で横腹を押す
 - 後肢の付け根をぐっと押さえる
 - その後、母豚の腰を押す
- この順番に、何回か刺激を繰り返そう。母豚を刺激に慣れさせないために、力をかける強さを変えよう。



外陰部の色

比較的誰にでもわかりやすい発情の指標は、外陰部の色です。発情の直前には、はっきりとした濃いピンク色になります。この時、外陰部は膨らんでいきますが、まだ最大の大きさではありません。外陰部のふくらみが最大になるのは、血液が引いて、赤みが薄れてきた時です。外陰部の内側も観察しましょう。なお、室温が高い場合は、外陰部はより赤くなります。

